第１回今金町文化財保存活用地域計画策定委員会会議録（顛末）

開催日時：令和３年５月13日（木）14:30～15:40
開催会場：今金町役場２階会議室 オンライン（ZOOM）形式
出 席 者：委員11名（欠席１名)、オブザーバー2名（文化庁調査官、道庁主査)、
町長、教育長、事務局担当課・連携課５名
処理顛末：以下の通り

１．開会挨拶（外崎町長）
※事務局から各委員の紹介
２．協議事項
（１）委員長・副委員長の選出について
委員長に長沼委員、副委員長に小田島委員とする事務局案が全会一致で承認。
３．今金町文化財保存活用地域計画策定に係る諮問について
町長から長沼委員長（代理で小田島副委員長）に諮問書を手交。
４．説明事項
（１）文化財保存活用地域計画について 資料１
事務局より資料１の通り説明、質疑なし。
（２）今金町の概要および文化財の現状について 資料２
事務局より資料２の通り説明、質疑なし。
（３）行政計画全体における地域計画の位置づけについて 資料３
事務局より資料３の通り説明、質疑なし。
５．協議事項
（１）地域計画で実現したい内容について 資料４
事務局より別紙４の通り説明、質疑なし。
（２）策定スケジュールおよび把握調査について 資料５
事務局より別紙５の通り説明。第２回委員会は、委員一同で現地見学の予定であったが、新型コロナウイルスの影響で難しい情勢にある。代案として分野ごとに複数回に分けて実施することを検討している。
委員：他の自治体の計画書をみると、この計画作成は大変な仕事と感じた。１年で作成するのは厳しいスケジュールだ。早めに計画書の目次を固め、各調査項目の大枠を示してほしい。建造物については一からの調査となるので、早期に取り掛かりたい。また、資料４にある民俗調査の進め方を伺いたい。
事務局:単年度で策定とするのは町の方針で､町総合計画との整合性をとることと、計画策定後の実施に早く進みたいため。建造物の現地調査は全体把握を主眼とし、保存対象とすべき物件の存否について確認したい。民俗調査については今年度でなく、計画期間内に取り組む調査の一つという捉え。

委員：町内の鉱業遺産について5月6・7日に現地見学した。残っている構造物は少ないと感じたが、町史や過去の調査成果を見ても、今金町における鉱業の隆盛は歴史上、特筆すべきものという感触をもっている。産業遺産全体としては次の5点を視点に深めていくべきと感じた（①鉱山史、②輸送史・鉄道史、③林業史、④農業土木史、⑤ダム建設史)。年度内作成に向け、緻密な調査計画をもち取り組む必要がある。(後日、同委員から詳細な資料提供あり）

委員長：このように、すでに行われた調査の成果や今後の予定等については、事務局から簡易な方法で委員会に情報発信されたい。

文化庁：短期間での計画作成とし、町としてのビジョンやロードマップはできている印象がある一方、今年度内にやりたいことが多く、作成が完了するのかという危惧もある。町の計画として策定する以上、目的を明確化することが大切。今回示された「調査」・「保存」・「活用」を進めることが、どのようにその目標につながるのか、軸を明確にしていただきたい。短期間で作成することを前提に、何を最低限計画に盛り込むのか、町としての方向性を明確にすること。また計画書は実状に即したコンパクトなものでよい。町のことがわかり、歴史文化の特徴が簡潔にまとめられているものが望ましい。

（3）その他

事務局：4月23・24日に実施した町内重要遺跡の調査成果が5月12日付け新聞報道された（別紙)。このように新しい文化財や価値の発見につなげたい。

委員長：今回のように、計画作りに伴う新情報については、簡易的な方法で各委員に情報が共有されるよう事務局で配慮いただきたい。

6．閉会

以上